クルマ・社会・パートナーシップ大賞特集

業界とユーザーへの貢献に「感謝」

大賞 「全国軽トラ市」でまちづくり団体連絡協議会

選考委員特別賞は南信州広域タクシー

宮崎県川南町の定期朝市トロントロン軽トラ市

日本自動車会議所 感謝表彰

第4回 クルマ・社会・パートナーシップ大賞

3社連携によるゼロエミッションタクシー導入を促進

日本自動車会議所（内山田竹志会長）は、第4回（2024年度）クルマ・社会・パートナーシップ大賞（CSP大賞、共催＝日刊自動車新聞社）の受賞者を決定した。大賞は、全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会（岩手県雫石町）が受賞した。同協議会は、軽自動車を可動店舗とした定期市を継続的に実施し、商店街の活性化や地域で活動する人材育成を図る「軽トラ市」を全国で展開してきた取り組みが評価された。選考委員特別賞は、南信州広域タクシー（長野県飯田市）が選出された。同社は、二酸化炭素（CO_2）排出削減を目指した電気自動車（EV）タクシーによるデマンド交通運行や災害時電力ライフライン確保などの諸活動に尽力した。表彰式は2月7日、都内のホテルで開催した。

CSP大賞は、自動車業界で働く550万人と自動車ユーザーによるさまざまな貢献活動に「ありがとう」と感謝を伝え、それぞれの素晴らしい取り組みが世の中に広がっていく一助になればとの思いから、2021年に創設した。

4回目の開催となる今回は、昨年9月の公募開始から11月末までに全国から多くの応募があり、その中から選考委員会が表彰にふさわしい取り組みとして「グッドパートナーシップ事業」25件を選定した。さらにこの25件の中から、表彰の目的や日本自動車会議所のビジョンに合致する大賞とそれに次ぐ選考委員特別賞、各部門賞を決めた。

部門賞は、モビリティに関する課題やモビリティの手段を通じた社会課題の解決に向けた活動を表彰する「モビリティ・ソリューション賞」、地域や自治体と協働・連携し、地域活性化を目指す活動を対象とする「地域・コミュニティ活性化賞」、SDGsの目標達成につながる取り組みを対象とする「SDGs貢献賞」、ユーザーとして自動車を大切に取り扱い、性別や年齢などに関わらず幅広い層から評価される取り組みを対象とする「自動車ユーザー連携賞」の4部門を設けた。今回の表彰では、7社が上位賞として部門賞を受賞した。

「モビリティ・ソリューション賞」は、トヨタカローラ香川（香川県高松市）とトヨタレンタリース沖縄（沖縄県那覇市）の2社、「地域・コミュニティ活性化賞」はネッツトヨタニューリー北大阪（大阪府豊中市）とレモリフ（香川県高松市）の2社、「SDGs貢献賞」はアデル・カーズ（熊本市南区）とポルシェジャパン（東京都港区）の2社、「自動車ユーザー連携賞」は新明工業（愛知県豊田市）。

挨拶

日本自動車会議所 内山田 竹志会長

このたび第4回（2024年度）クルマ・社会・パートナーシップ（CSP）大賞の表彰式の開催にあたり、主催者を代表し、ご挨拶申し上げます。

さて、周知のとおり、日本の自動車産業は、全就業人口の約1割にあたる550万人の方々が働き、わが国のGDP・貿易・雇用・納税・サプライチェーンといった幅広い分野において重要な地位を占める基幹産業です。自動車業界550万人の方々は、新たなモビリティ社会の実現に向けて、日々のさまざまな課題に対応しながら、日本や地域の経済・社会を牽引するリーディング産業・業界の誇りをもって働いておられます。

この「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」は、そうした550万人の方々や自動車のユーザーが、たとえ光が当たらないことであっても、社会の方々に果たされているさまざまな形の貢献に対して「ありがとう」と感謝を伝えるとともに、それぞれの素晴らしい取り組みが多くの人々の目に触れ、世の中に大きく広がっていく一助になればとの思いから、日本自動車会議所創立75周年を記念し、2021年に創設したものです。

昨年9月より今回の公募を開始いたしましたところ、皆さまのご協力により、多数の応募をいただきました。皆さまのこれまでの取り組みに心から敬意を表しますとともに、本大賞へのご理解・ご協力に対して、厚く御礼申し上げます。

今回も選考委員の皆様による熱意ある厳正な審議を経て、受賞者が決定される運びとなりました。大変ご多用の中、審議にお時間をいただきました選考委員の皆さまに感謝申し上げます。

選考の結果、25件の「グッドパートナーシップ事業」が選定され、その中から「大賞」に全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会の「軽トラ市による商店街活性化活動」、「選考委員特別賞」には、南信州広域タクシーの「ゼロエミッションタクシーを活用した地域のデマンド交通運行や災害時でのライフライン確保等の活動」をはじめ各部門賞の方々が選ばれました。受賞者の皆さまには心からお祝い申し上げます。

今回は、共同応募に名を連ねる企業・団体が多く、多くの関係者を巻き込んで、課題解決にあたられたプロジェクトが多かったように感じております。受賞された取り組みは、共催の日刊自動車新聞社とともに、より光をあて幅広く広報を行ってまいります。

「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」は、当会議所の大切な事業として今後も継続し、自動車業界の重要な表彰制度にしっかりと育てていきたいと考えております。第5回となる来年度の大賞においても、数多くの素晴らしい取り組みに接することができることを楽しみにしております。

最後になりましたが、受賞者の皆さま、会員の皆さまをはじめ、自動車業界、自動車にかかわるすべての皆さまのますますのご発展をご祈念申し上げ、表彰にあたってのお祝いと感謝のご挨拶とさせていただきます。

幅広く光あて「ありがとう」

講評

東京大学名誉教授／日本自動車研究所長 鎌田 実 選考委員長

第4回のCSP大賞でも選考委員長を務めさせていただきました。選考委員のメンバーはお一人退任され、新たに宮木さんに就任いただき、幅広い観点からの選考作業を実施いたしました。

今回は、残念ながら、応募件数は前年より減少しました。しかしながら、内容はいいものが多く、感謝の意を伝えたい素晴らしい活動を選定することができました。

選考プロセスは、前年同様、グッドパートナーシップ事業に値するもの、さらに大賞候補となるものを、各選考委員から挙げていただき、まずはグッドパートナーシップ事業を選出しました。いいものが多く、どこで線引きするかは悩みましたが、賞の趣旨である感謝の意を表したいものとして点数付けして、応募数の約半数に絞らせていただきました。

上位賞については、大賞を選び、それから部門賞を決めていくプロセスとしました。大賞に選ばれた全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会（岩手県雫石町）の「軽トラ市による商店街活性化活動」は、日本の誇る軽トラックを使った市場を全国規模に展開し、長く親しまれてきた活動であり、大賞に相応しい内容でした。大賞に準じて素晴らしい内容として選考委員特別賞に選ばれた南信州広域タクシー（長野県飯田市）の「ゼロエミッションタクシーを活用した地域のデマンド交通運行や災害時でのライフライン確保等の活動」も、長く活動を継続的に実施されてきており、高く評価されました。

多様な取り組み もっと広がれば

さらに部門賞として、「モビリティ・ソリューション賞」2件、「地域・コミュニティ活性化賞」2件、「SDGs貢献賞」2件、「自動車ユーザー連携賞」1件が受賞者に選ばれましたが、いずれも素晴らしい活動であり、強く感謝の意をお伝えしたいと思います。

CSP大賞も4回目となり、応募件数が伸び悩んでいる現状を考察しますと、過去にグッドパートナーシップ事業に選定されたものが素晴らしいため、そのレベルにないと応募を控えるという傾向があるのではないかと感じています。また自動車ディーラー関係のライフライン確保等の活動の応募と受賞が多く、それはそれで素晴らしい活動が多いですが、多様な方々の多様な活動という広がりが少なくなっているように感じられるのも悩みです。個人的には、賞の趣旨に立ち返り、感謝の意を伝えたいさまざまな活動に脚光を当てたいと考えております。

☆選考委員☆

関根 千佳（ユーディット会長兼シニアフェロー）

森 摂（オルタナ代表取締役社長「オルタナ」編集長）

田口 亜希（日本財団パラスポーツサポートセンター競技団体支援部ディレクター）

宮木 由貴子（第一生命経済研究所常務取締役）

島﨑 豊（日本自動車会議所専務理事）

花井 真紀子（日刊自動車新聞社代表取締役社長）